

世界初のXRテストドライブ

“XRヘッドセットを着用しての運転は、ボルボの自動車開発の歴史上最も大きな挑戦です。このような挑戦はXR-1でしかできません。”

キャスパー・ウィックマン氏ーボルボ・カーズ社リードエンジニア



Varjo (ヴァルジョ) はボルボ・カーズ社と共に、世界で初めて複合現実を使って試作品や設計、予防安全性能の評価を行い、文字通り未来を走ります。

史上初めて、ボルボとVarjoの2社によって、複合現実ヘッドセットを装着して現実の自動車を運転することが可能になりました。違和感なく仮要素を現実に投影することができます。

動画を視聴する



道を切り開く

ボルボ・カーズ社は2018年夏からXR-1の試作品を業務に取り入れてきました。車の内装に現実さながらの仮想要素を重ねることで、同社の設計者は車の製造前からデザインを検討することができます。

XR-1を使用することで、ボルボ・カーズ社はデザイン・コンセプトやユーザー体験のテストを容易に繰り返すことができます。ツールやソフトウェアの変更に伴う煩わしさもなく、大幅なコストの削減にもつながります。「通常なら数週間以上かかることを、1日でこなせるようになります。」キャスパー・ウィックマン氏は言います。

設計を評価するにあたって重要なのは、外形や全体のバランスを確認できることはもちろん、構成部分同士の整合性、レザーの質感などが見て取れることです。「XR-1では前例のないリアルさが得られるため、評価結果の信頼性が増します。」

また、複合現実でできないことはないのですが、迅速に進めることができます。」とウィックマン氏。ボルボ・カーズ社の技術者は、運転手にXR-1ヘッドセットを着用させて、本物のボルボ XC90の試験運転を行っています。これまで、他のデバイスでは不可能でした。

「XR技術を運転に活用する場合、遅延時間が解像度以上に重要になります。XR-1はそのどちらも並外れています。」



“XR-1は、現実と非現実の区別がつかない唯一のデバイスです。”

XR-1が可能にするボルボ・カーズ社独自のユーザー調査

XR-1に搭載された視線追跡機能である20/20 Eye Trackerは、ボルボ社がユーザー分析を行う際、その関連性や結果の理解に役立ちます。視線追跡機能は可能性や信頼性を一層広げることにつながります。使用者と同じ立場で自動車を観察できるため、重要なものの見極めを効率的に行うことができます。

ボルボ社はXR-1を使って、本物の道路、周囲の自然、道路標識など、可能な限り現実と同じ条件でユーザー体験調査を行うことができます。新しいディスプレイや内装など、目的のものだけを取り替えて評価することが可能です。

「XR-1を着けて運転していると、ヘッドセットを通して見ていることを忘れてしまいます。」

仮想のヘラジカが道路を渡っていると、XR-1を着けた運転手はブレーキを掛けます。あるいは、仮想の車が試験車を追い越していくのを見て、『あの車は本物ですか?』と聞いてきます。」

将来性について、製造や自動車の組み立て訓練、小売、車の構成、研究など、共同開発できる分野には無限の可能性があるとウィックマン氏は言います。

「今後、存在しないものを試したいときに使う技術といえばXR-1になるでしょう。」

お問い合わせ先

株式会社 エルザ ジャパン

〒105-0014 東京都港区芝3丁目42番10号 三田UTビル
TEL : 03-5765-7391 FAX : 03-5765-7235

© 2020 ELSA Japan All rights reserved. ELSA (エルザ) は、テクノロジージョイント株式会社の登録商標です。その他の商品名は各社の商標または登録商標です。仕様などは改良のため予告なく変更する場合があります。
本カタログの掲載内容は2020年10月現在の情報です。